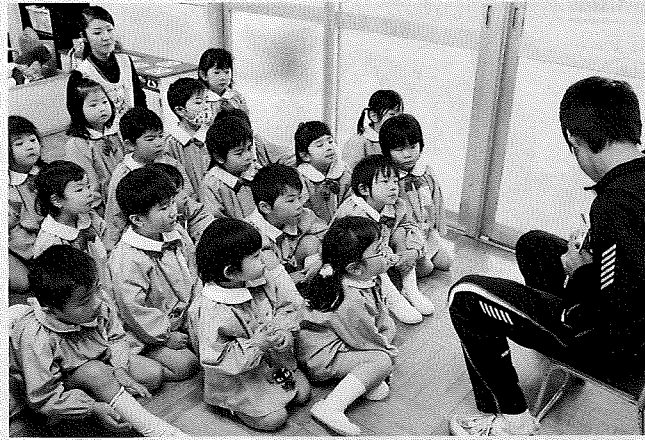


一緒に歌い踊る

たかおかこども園に鷹中生



中学生による絵本の読み聞かせ



新聞紙で楽しく遊んだ

富士市厚原のたかおかこども園(渡邊宏行園長)で18日、鷹岡中

2年生31人による保育実習が行われた。家庭科の一環で、28日まで全6クラス合わせて188人が参加する。初日は2歳児から年長児まで約200人と、手遊びやダンス、工作、絵本の読み聞かせを練り広げた。

手遊びでは、2人1組で互いの腕に優しく触れ合う「本橋こちよこちよ」、寝をべった相手の足首や尻などをくすぐる「いちり」などで、にぎやかな声を響かせた。曲が変わるたびにパートナーを変更するというルールの下、中学生は「一緒にやろうよ」などと声を掛け交流の輪を広げた。

ダンスではコンプやダイコンなど、さまざまな具材を煮込んでおでんを作る過程をユーモラスに表現した「おでん」で、元気いっぱい体を動かした。日頃園児が練習している曲とあって、テンポよく運動した。工作では紙皿の中央部分にビー玉を仕込んで



紙皿にデザインを描いたこま作り

だこま作り挑戦。紙皿にハートや星など、オリジナルのデザインを描いて完成させた。園児たちは「かわいのができたよ」と満足そうな表情を浮かべた。交流に先立ち、生徒は人気キャラクターのデザインした手作りの

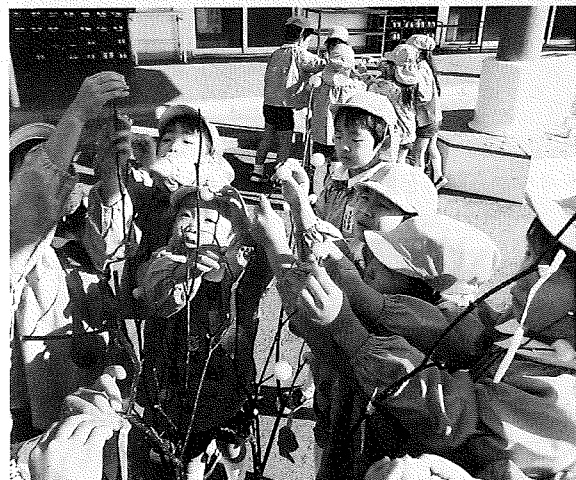


手遊びで腹部をくすぐった

名札やペットを使つた自己紹介を行った。生徒の八木あゆみさんは「初めは緊張したが、名札やペットをきっかけに、子供と楽しく交流できた。多くのことを学べた」と笑顔で話した。渡邊園長は「きょうだいのいる家庭が少なくなり、園児にとって中学生との交流は貴重な機会。中学生にとっても思いやりの心を育てるきっかけにしてほしい」と意義を伝えた。



得意のダンスで中学生と交流する園児



繭玉作りで伝統行事に親しむ

たかおかこども園では先ごろ、繭玉作りを実施した。年長児と乳児合わせて84人が同園の栄養士の指導で、ことし1年間の五穀豊穡(ほうじょう)と家内安全を祈る伝統行事に親しんだ。参加者は上新粉に湯

や食紅を加え、緑や黄、赤など色鮮やかなまゆ玉を練り上げた。蒸した団子は、画用紙で作った富士山や宝袋などの縁起物の飾りとともに、ミズキの枝に付けて完成させた。幼稚園教諭によると、子ども焼きの由来を紹介する紙芝居の上演も盛り込まれた。繭玉作りは食育の一環で、伝統行事への理解を深めてもらう狙いで初めて開催した。

(提供写真)